

# くろぐみだより

第19号 平成27年 10月 9日

お久しぶりです。あさひこ非公認つうしん、くろぐみだよりです。

**スポーツではなく、保育として** (副園長)

いよいよ明日は運動会です。

あさひこ幼稚園の運動会は、「大人に見せるためのよく練習された芸」を見せる場ではなく、どの学年も、その年齢の育ちにあった活動をみんなで楽しむ行事です。

それを経ることで、子どもたちが育っていくための行事です。

ですので、ある意味…地味です！

派手さはありません！

でも、とてもいい笑顔、いい表情に、たくさん出会えることと思います。保護者の皆さんは、楽しみにしててください！

そんな運動会の大トリは、年長「バトンタッチリレー」です。

ひとクラス約30人が、赤白2つのチームになり、3クラス対抗、赤チーム・白チームの2回戦を行う競争です。

このリレーの活動については、今までも連日のようにブログでふれてきました。

まだ読まれていない方は、ぜひ読んでください。

リレーは、年長の子も子どもたちが体いっぱい、心いっぱい、真剣な気持ちで、全力で走ることと思います。

見て損はないと思いますので、年少・年中の保護者の方もぜひご覧いただき、大きな声援を送っていただけたら嬉しく思います。

そして、「自分の子ども、来年（再来年）、ああやって走るんだ」と想像していただけたら。

そんなリレーですが、前述のとおり、地味で、でも子どもが育つために考え抜かれた、あさひこの運動会です。

その中身の、大切なところも、少し、わかりにくいことがあると自覚しています。

ですので、本番でご覧になる前に、少しだけ、「その保育としての意味」をここで書かせていただきたいと思います。

長文ですが、どうかお読みいただけたらと思います。

まず、これが1番大切なことなのですが、幼稚園で行われている活動は、スポーツではない、ということなのです。

保育なのです。

だからきっと、たとえば、自分のこどもが中高生で、その部活の試合を見に行くときは、少し違う見方が必要なのだと思います。

リレーで、みんなが向かうのは、もちろん、「1番」です。

それは、スポーツと同じです。

もちろん、1番は、うれしい。1番は、きもちいい。

3番は、くやしい。3番は、いやだ。

1番になりたいから、勝ちたいから、がんばる。

それはとても大切なことです。

はじめから、1番でも3番でもいい、では、その活動の中で、心動かすことはできません。

大きく育つことはできません。

しかし、その終着は、「1番だったからよかった」「3番だったからダメだった」という、単純な「勝ち負けの価値観」であってほしくないと考えています。

1番になりたいから、勝ちたいから、がんばる。

じゃ、誰かがんばるのか？

「誰か」じゃない。「みんな」です。

今まで一緒にいっぱい生活して、いっぱい遊んで、こいのぼりをつくって、お泊まり保育をして、ドッチボール対決をした、楽しんだ、そんな大好きな、クラスの「みんな」です。

そんなみんなで、1番を目指します。

みんなで勝ちたい。

「みんな」には。

足が遅い子もいます。

集中力が続かない子もいます。

言葉にできない子もいます。

恥ずかしがりやも、素直に思いを出せない子も、いろんな子がいます。

そんな「みんな」で、考えて、刺激あって、意見して、ぶつかりもして、分かりあって、喜びあって、高めあって、泣いて、笑って、1番を目指します。

そんな活動を通して、頭も体も心もいっぱい使って、そして、育つこと。育ちあうこと。

それが、保育であることの目的です。

だから、どうか保護者の皆さん。

お子さんが、クラスが、誰かが、「何位だったか」で、評価をしないでください。

誰かや、他のクラスや、過去の年長や、他者と比較して評価をしないでください。

もちろん、年長の保護者であれば、自分のお子さんのチームに、勝ってほしいでしょう。

だって、自分の子どもの、嬉しい顔が見たいから。喜ぶ顔が見たいから。

でも、そこで評価はしないでください。勝っても、負けても。

もし1番であったなら、もちろん、共に喜んでください。分かち合ってください。

そして1番大事なことを伝えてください。

「1番だったことも嬉しいけど、それ以上に、あなたが真剣に、全力で、本気でがんばったことが1番嬉しい。あなたは最高で、大きくなった、それが嬉しい」

ということを伝えてください。

「1番だったから」という理由で、ご褒美をあげないでください。

なにかご褒美をあげるなら、「順位ではなく、あなたの頑張り」に対して、にしてください。

しかし、「がんばって、1番になった」という純粋な喜びを、「ものがもらえた」という喜びに変換させてしまわないよう、注意してください。

3番であったなら、もちろん、共に悔しがってもいいし、子どもの気持ちを受け止めてあげてください。

でも、1番大切なことを伝えてください。

「3番だったことは悔しいと思う、けど、それ以上に、あなたが真剣に、全力で、本気でがんばったことは、とても素敵だった。あなたは最高で、大きくなった、それが嬉しい」

ということを伝えてください

「あなたは最高だ」ということを。

勝っても負けても…  
「1番」を、必死で目指したからこそ得ることのできる、「順位なんて関係ない価値」。

その育ちを共に喜んでください。

大胆に言えば、今の段階で、順位は、何番であっても、その価値を変えません。

今の段階だから、そうなのです。

一ヶ月前からは考えられません。

今年の年長は、「いやだ」「やりたくない」という子がたくさんいるところからのスタートでした。

「自分に関係ない」「恥ずかしい」「負けるのが嫌だから」「応援されるのが嫌だから」「やりたくない」

そういった子がたくさんいる、その大きな課題がありました。

やる気の子も、ひとりひとり「自分」のことばかりで、周囲の子になかなか目が向けられなかった。

みんなでやるバトンタッチリレーを「楽しいじゃん」と感じられるまでの課題が、とても大きかった。

そこから、少しずつ課題を乗り越え、達成感を感じ、友達と交わり、少しずつ少しずつ、「みんなで」「勝ちたい」になっていきました。

そして、見違えるように変わっていきました。

その子どもたち一人ひとりの育ちは、とても大きいものでした。

明日は、どうか親子で、その育ちそのものを共に喜び合う、そんな日になったら、と思います。

また、バトンタッチリレーには、細かいルールが存在しません。

「同じ人数で、バトンを最後までつなぎ、アンカーがゴールラインに早くゴールしたチームから勝ち」というだけです。

たとえば、「ひとり少ないクラスはどうするのか?」「休みの子が出たらどうするのか?」「もし白線の内側に入って走った場合はどうなるのか?」ということは、もともと、決まっています。

それは、先生たちでも話し合いますが、原則、その年の子どもが決めます。

それもまた、スポーツとはまったく違うところです。

なぜ決まっていないのか、というと、「そういうことが起こったときに、『じゃあどうするのか?』を自分たちで話し合って考えて決めること」が保育をするうえで大切なことだからです。

なにかに気づき、課題が見つければ、先生は、「どうしたらいいと思う?」と問いかけます。話し合い、決定します。

そこで決まったことが、その年のルールです。

また、ルールについては、毎年、子どもが自分たちで決める以外、決めようがないとも言えます。

保育として、選抜チームではなく、全員参加でリレーをやる以上、その年によって、たとえば、障害を持つ子がいるときもあります。走ることができない子がいるときもあります。そのとき、「じゃあ、どうする?」ということが、「ルール」によって決められてしまうのであれば、それは「みんなで育ちあうための保育」ではないからです。

バトンタッチリレーが保育である以上、ルールは、「なんでもあり(考えうる限り最大に柔軟に)」が前提です。

(そもそも今年度でも、このリレーが始まった当初は、人数すら一定ではありませんでした。誰がゴールしたら決着なのかも決まっていませんでした。順位すらありませんでした。みんなトラックに並んでいたし、並んでいる人にぶつかりながら走っていました。そこからのスタートです)

ちなみに今年は、人数の少ないクラスのチームは、「誰かが2回走る」と決まり、「じゃあ、どんな人に走ってもらいたいのか?」を話し合いました。足が速いことももちろんありますが、単純にそれだけではなく、リレーにかける思いや姿から、この子なら!と、決まりました。

他のクラスでも、もし欠席の子がいたら、同じように決めるでしょう。

そのことに、今年は「(速い子が2回走って)ずるい!」という他のチームからの声はありません。

そんなことより、「そんな相手にどう勝つか」を課題にしています。

(過去には「その決め方だと不公平だ」ということが課題となり、「2回走る子はその場でくじで決める」となった年もあります。それはその年の子どもたちからこそその課題です)

もちろん、「足が遅い子が欠席だったから、今日は速い子が2回走れてラッキー」というような発想ありません。

子どもたちにとって、リレーとはそういうものではないからです。

白線の内側に入っちゃいけない、ということは何回も課題になりました。抜かしたいあまりに、線の内側に入ってしまうのです。

先生たちも、「線の各所にコーンを置くか?」ということを議論しました。でも、「自分たちで気づけて、課題にしてほしい。そして直せるはずだ」との思いから、あえてコーンは置きませんでした。

結果、今はほぼ線の内側に入ることはありません。線を守っています。

だから、子どもたちからも「もし内側に入ったら失格」というようなルールは提案されませんでした。

(厳密に失格となった年も、コーンを置くことになった年もあります)

だから、そういったルールについては、今年の子どもたちを尊重したいと思います。

本番というのは、なにが起るかわかりません。誰が2回走るか。もし白線の内側に入ってしまったら。ひょっとして、大人の目から見ると、「ずるい!」と言いたくなる様な事も起こりえないとは限りません。

でも、そういうことは、たとえ我が子のためだとしても、口にされないでください。

それを周囲の大人が口にしてしまうのは、わが子を含めた今年の子どもたちを、傷つけることになってしまうのです。

どうか、子どもたちで決めたこと、その思いを尊重していただけるよう、お願いします。

最後になりますか…

僕は、「勝ち組」とか「負け組」とかいう言葉がきらいです。

それは、「本気で生きること」そのもの、結果ではない「行いそのもの」の熱を、価値を、知らない人間が作った言葉だと思っています。

あさひこ幼稚園では、自己肯定感を育むことを大切にしています。

「自分って最高!」

子どもたちには、富、名声、社会的地位、そういう他者との比較でしか感じられない相対的な幸せ、不幸せではなく、絶対的に「自分って最高!」、そういう感性を持ち、それをもとにおおらかに人と関わり、自由に生きていける、そんな幸せな人間、生きる力を持っている人間になってほしいと願っています。

明日は、みんなで、1番を目指します。

勝ちたい。

そうして、本気で、全力で、ゴールを目指します。

そのゴールの先に、「自分って最高!」「自分たちって最高!」「みんなと一緒にって最高!」、そうやって「幸せに生きる」ということが、待っている。そう信じています。

さあ、明日は、そんなふうに、子どもたちを支えていただけたらと思います。

明日はついに本番。

積み重ねた思いが強ければ強いほど、「本番」というのは、子どもたちにとって特別なものとして感じられるでしょう。

きっと、子どもたちが今まで生きてきて感じたことのないような緊張、ドキドキ、プレッシャー、もしくはテンションの急上昇、そういったことを経験するでしょう。

だからこそ、なにが起るかわかりません。

でも、なにが起っても、今までと違う姿だとしても、どんな姿でも、子どものことを受け止め、表面上の見た目や、会の進行などより優先して、きちんと軸をずらさずに、本番も「保育」をしたいと考えています。

どうか、それをご理解いただき、あたたかい応援を、よろしく願いいたします!